
北海道町村会編
「地方自治土曜講座ブックレット」

公人の友社

川村 喜芳

北海道町村会と北大法学部の共催で平成7年から始められた地方自治土曜講座も今年で8年目を迎える。その講義記録をまとめたものが「地方自治土曜講座ブックレット」だ。開講直後の平成7年（1995年）から刊行が始まり、これまでに87回分の講義を収録した73冊を発刊、引き続き刊行が続けられている。

執筆者は研究者、首長、議員、自治体職員、市民、ジャーナリスト等62人。うち研究者29人による53回の講義は自治体理論、その他33人の講義は現場の取組みを踏まえたもので、理論と実践の紹介がうまく組み合わせられた地方自治論のシリーズとなっている。

講義のテーマは「転型期自治体の発想と手法」（松下圭一）、「地方分権推進委員会勧告とこれからの自治」（西尾勝）、「自治体学のすすめ」（田村明）、「政策法学と条例」（阿部泰隆）、「分権型社会と条例づくり」（篠原一）、「分権型社会の地方財政」（神野直彦）「財政運営と公会計制度」（宮脇淳）、「自治と参加」（佐藤克廣）、「スコットランドと北海道」（山口二郎）、「介護保険は何を変えするか」（池田省三）、「環境自治体とISO」（畠山武道）等、自治・分権論、政策法務論、地方財政論、政策評価、PFI、住民参加論、比較地方自治論、福祉、環境論、地域産業論から市町村合併問題まで、幅広い分野に亘っている。

この他、平成7年（1995年）の「現代自治の条件と課題」（神原勝）、平成10年（1998年）の「地方分権と法解釈の自治」（兼子仁）と「内発的発展による地域産業の振興」（保母武彦）、平成11年（1999年）の「公共政策と住民参加」（宮本憲一）等が名講義として記憶に残る。特に平成7年（1995年）土曜講座開講の日と2日目の4コマ6時間を通して行われた神原教授の連続講義は受講者に大きなインパクトを与えた。

この講義を聴いて目を開かれたという職員が多い。「目からうろこが落ちた思い。これから何をすべきかを教えられた」という感想が、当

時事務局に寄せられている。

土曜講座ブックレットは自治体理論や新しい行政手法を平易な語り言葉で記述しているのが特色で、各地の自主研究グループでテキストに活用されている。数年前、西尾勝教授から東大でゼミの教材に使いたいとお話があり、ワンセットお送りしたことがある。政策研究大学院でも横道教授がテキストに使っておられたと聞いている。

ブックレットは、自治・分権への熱い思いを伝えるメッセージ集でもある。逢坂誠二ニセコ町長の「自治の課題とこれから」、北良治奈井江町長の「分権時代の自治体経営」、山田孝夫東川町長の「改革の主体は現場にあり」、佐藤守藤沢町長の「自治の中に自治を求めて」やニセコ町職員片山健也氏、綾町職員森山喜代香氏等による自治体改革と町づくりの実践報告は受講者に大きな感銘を与えた。土曜講座実行委員長として毎年登壇される森啓教授の講義も自治体職員に元気を与えている。森教授の一連の講義録は「自治体の政策研究」ほか7冊のブックレットに収められている。

土曜講座には、文字で伝え切れない何かがある。会場に溢れる熱気である。「土曜講座を初めて受講し、ブックレットで読むのと直接話を聞くのではぜんぜん違い感激しました。札幌まで車で7時間かかりますが頑張って通おうと思います」。2年前の土曜講座に寄せられた受講者の感想である。

今年から土曜講座は北海道町村会の手を離れ、北海道自治体学会のボランティアグループにより自主運営される。

土曜講座は、単なる「お勉強会」ではない。自治体学会会員の手で土曜講座の熱気が廻り、改革を推進するエネルギーとなり続けることを願っている。